

積極的な単元の関連付けに向けた考察と実践

－生徒の姿が見える授業実践の方法－

美術科 西澤 明

1. テーマ設定にあたって

(1) 美術科の現状の整頓

本研究テーマの設定について述べるにあたっては、まず現在の中学校美術科がおかれている状況について整頓する必要がある。

1つ目は授業時数についてである。これまでも機会があるごとに確認してきたことではあるが、中学校における美術科の授業時数は、これまでの学習指導要領改訂の中で減少が続いて久しい。現在の年間授業時数は第1学年が45時間、第2学年と第3学年が35時間である。年間は35週なので、ほぼ週に1回、1時間の授業ということになる。この授業時間で行える単元や扱える教材を考える時、例えば校外に出た制作活動や鑑賞活動は相当難しく、教室での活動でも準備や片付けの時間を考えるとかなり厳しいものがある。

2つ目は学習内容についてである。学習指導要領には表現活動と鑑賞活動の2つの活動が示され、とりわけ表現活動については、絵や彫刻などの活動とデザインや工芸などの活動という多岐にわたった領域を、3年間を通して発展的に実現するのが望ましいとされている。こうした学習活動やその活動における目標は、週2時間の授業だった頃からさほど変わってはおらず、実際に学校で取り上げている単元についても大きな変化は見られない。しかし先に述べた授業時数の減少という状況の中、週2時間授業で行ってきた教材を同じ指導で扱えば、当然無理は生じるだろう。

3つ目は子どもたちの資質や能力についてである。生活環境や学習内容の変化に伴って子どもの資質や能力が変化するのは当然とも言えるが、ここ10年ほどの授業実践の中でとりわけ気になるのは、学習活動における子どもたちの意欲の低下、必要な知識・技能の能力の低下である。先に述べたように、授業時数の減少とそれに対応した教材の開発は美術科の大きな課題だが、そうした課題以前に、学習活動に必要な子どもたちの資質や能力の低下は、活動の沈滞化や作品の低質化となって現れているように思う。具体的には、自ら試行錯誤することなく、よりよい成果とそのためのマニュアルを安易に求めたり、求める結果の実現が困難な場合に、粘り強く取り組み続ける意欲が低かったり、目的を実現するのに必要な基礎的な知識・技能が未修得だったりといった様子が見られるのである。

(2) 教材制作における具体的な課題

以上のような状況の中で単元および扱う教材についての考察を行うには、次のような課題が必要になってくると考えられる。

① 学習目標と学習内容の再確認および明確化

A. 学習指導要領の読み込みと理解

学習指導要領に示された学習目標や学習内容は法的に定められたものであり、十分な理解とその実現に努める必要がある。特に美術科の学習指導要領では心の働きに触れた内容や抽象的な言い回しが多いため、その解釈について明確な意見を持つ必要がある。

B. 過去の実践の分析と整頓

これまで長く、広く行われてきた単元や扱われてきた教材にはその理由、何らかの価値があるはずである。現状にそぐわない点を一概に否定するのではなく、その目的（学習目標）や、その

学習内容を通して培うことが期待できる知識・技能について整頓する必要がある。

② 現状の把握とそれに即した教材開発

A. 授業時数

週1時間という授業時数で活動するためには、作品の規模や作業手順などをコンパクトにまとめる手立てや工夫を行う必要がある。

B. 子どもたちの資質や能力

子どもたちの資質や能力の低下を悲観的、否定的にとらえ、その改善を目指すことは大切だが、同時に現実の姿として真摯に受け止め、その現状や要求に対応した活動を行う必要もある。

C. 活動環境

地域の伝統や特性を考慮、活用するとともに、各学校の施設や設備を十分に活用する工夫を行う必要がある。

D. 学校行事や他教科の活動

文化的行事や他教科の活動における美術的活動に関わり、連携を図るとともに、美術科で扱う単元との関連付けを積極的に行う必要がある。

③ 中学校3年間とその前後を視野に入れた体系化

個々の教材については単独で考えるのではなく、中学校3年間の流れの中で発展的に位置づけられ、体系化する必要がある。もちろん3年間にとどまらず、その前後、小学校図工科や高等学校美術科のカリキュラムまで視野に入れることが望ましいだろう。

こうした課題についてはどれが重要であるかといった意識ではなく、それぞれを密接に関連付けさせながらその実現を図る意識が望ましい。そうした意識で課題をまとめると、「限られた授業時間で、これまでと同様もしくはそれ以上の成果が期待できる単元、教材を開発すると同時に、それらをいかに関連付け、3年間という期間の中で発展的に配することができるか」が大きなテーマとなるだろう。本年度の研究ではそのテーマに沿った具体的な実践について、ここ数年続けている「レタリング表札」の単元をベースにして試行するとともに、それが単に考察で終わらず、目に見える子どもの活動となることを意識した。

2. 「レタリング表札」をベースにした授業実践について

(1) 校内展示施設活用として

校内に作品が展示されることは、子どもたちの学習活動にとって相互鑑賞の対象として有意義であると同時に環境を潤いあるものにし、そこで生活を送ることで情操の心を育てるためにも有効であろう。美術の授業で制作された作品についてはこれまでも美術室の掲示板での展示を行ってきた（図1, 2）、作品のサイズによっては全員の展示というわけにはいかず、教師によって選抜された作品のみの展示になりがちであった。各教室での展示でも同様である。その他の場所として玄関ホールや階段のネット（図3）などに展示したこともあるが、長期間にわたって常設することや管理が難しく、できるだけ多くの作品を展示する方法をここ数年にわたって模索してきた。

「レタリング表札」では、各教室前廊下壁面にあった空きスペース（図4）にフックを取り付け、そのクラスに在籍する全員分の作品を展示しているが（図5）、完成した作品の鑑賞としての場の活用だけでなく、クラスへの所属の意識付けとしても有効な展示になっているように思われる。

(2) 意欲の喚起と知識・技能の向上に向けて

本単元では、3学年すべてで同じ教材を扱うことで、上の学年の発達段階や習得した知識を下の学年の手本として提示できる長所や、逆に発生する問題点をより具体的かつ身近なものとして明確にできる長所が考えられる。実際に自分が制作する作品に直接関わるものを観ることで、より意欲や関心を高め、具体的な目標を持ちやすいため、ここ数年の子供たちの同作品を観ると、明らかにその内容は高まってきているように思われる。

(3) 異学年交流の題材として

上級生の作品の鑑賞については、これまでは単純に掲示された廊下を往復し、ワークシートを記入するだけだったが(図6,7)、今年はひとつの試みとして、実際にその作品を描いた本人に登場してもらって異学年交流の授業を行った(文末資料)。作品を持った2年生が1年生の授業に参加し、自身の作品で工夫した点や苦労した点を語り、質問を受けるようにした。実際にはたくさんの人の前で緊張するのか、なかなか活発なやり取りにはならなかったが、一人歩きしがちな作品に比べ身近な存在である上級生と交流することで、自分にもできるかもしれないという意欲や、真似をしてみたいという具体的な目標が出やすくなったようである。

(4) より幅広い展示の場として

一昨年までは、3文字のレタリングだけだったのだが、昨年からは作品の上部に10センチ四方、1文字分の余白スペースを作っている。このスペースについては小品の作品展示用の場としての使用を考えており、例えば10センチ四方の用紙でスケッチを行い、その作品を余白に掲示することで全員分の作品展を行うことができる。今後は10センチ四方での展示をキーワードにした教材の開発を考えており、現在3年生では「風景を切り取る」と題した単元で、写真の作品を作成中である(図9)。その他にも、例えばテラコッタによるレリーフや焼き物による一輪挿しなどの可能性についても計画中である。

3. 学校行事(総合的学習)との関連付け

3学年を通した「レタリング表札」の単元は、学年が上がるにつれての発展的な知識・技能の習得、生活の中に作品が置かれるよさや集団への所属意識の育成、身近な上級生の作品を参考にすることによる関心・意欲の向上、さらに余白を利用した小品展示の可能性など、今後に大きな可能性を持ったものとして定着してきた。今後はそこで展開される小品作成の教材開発に力を入れ、3年間という期間の中でより体系的な単元計画を行いたいと考えている。さらに、学校行事との関連付けをより強固なものにすることで、美術科の活動価値が明確かつ強固なものになるように思う。

今年度については、文化祭で長きにわたって続けられてきた1年生による“シルエット”に向けた切り絵の授業を行っており、今後もそうした形で総合的学習における情報教育スキルの学習などに積極的に関わることで、生徒の意欲の持続や学習の定着を実現できると考えている。

1年2組 美術科学習指導案

平成 18 年 5 月 9 日 (火)
第 2 限 4F 美術室
指導者 西澤 明

1. 単元名 「レタリング表札」

2. 目 標

- ・手本を正確に拡大，転写するための知識を身に付け，実際の制作活動で実現する。
- ・絵の具をムラなく，はみ出さずに塗るための知識を身に付け，実際の制作活動で実現する。
- ・参考作品や友人の作品を鑑賞し，そのよさや問題点について感想や意見を持つとともに，それを自分の制作活動に生かす。

3. 評価の観点及び規準

① 美術への関心・意欲・態度

- ・簡単にあきらめることなく，よりよい作品の実現に向けて粘り強く制作に取り組むことができる。
- ・参考作品や友人の作品のよさや，自身の制作の参考になる事柄を積極的に見つけ，発表することができる。

② 発想や構想の能力

- ・作品の制作にあたって，自分なりの意図（ねらい）を具体的にしっかりと持つことができる。
- ・制作意図のよりよい実現のために，色づかいについて選択や組合せを創意・工夫し，構想することができる。

③ 創造的な能力

- ・手本を正確に拡大，転写するための知識を身に付け，実際の制作活動で実現することができる。
- ・絵の具をムラなく，はみ出さずに塗るための知識を身に付け，実際の制作活動で実現することができる。

④ 鑑賞の能力

- ・参考作品や友人の作品を鑑賞し，そのよさを味わうとともに，そこから作者の思いや感情を自分の感性で感じ取ることができる。
- ・参考作品や友人の作品を鑑賞し，その技術的なよさや問題点について感想や意見を持つとともに，それを自分の制作活動の参考として生かすことができる。

4. 指導にあたって

【教材観】

「レタリング表札」の単元は，名前の文字をテーマにした，ごくオーソドックスなレタリングの教材である。中学校では授業時間数の減少にともなって 2 時間続きの授業がなくなり，移動や準備・片付けに手間と時間がかかる写生の単元は特に活動しにくくなってきている。さらに，生徒が使う絵の具の多くがポスターカラーやアクリルガッシュになったこともあって，手間や時間がさほどかからずに行えるデザイン領域の活動が増えているようにも思われる。絵の表現活動の「基礎的な知識・技能」の学習を材料・用具の生かし方という観点で考えたとき，こうしたデザインの表現活動において絵の具や筆の扱いを学習することは非常に重要かつ有効だと考える。

【生徒観】

知識や技術をいつ，どのように使うかといった指示を具体的に出した場合，それを実現できる力は非常に高い。しかしその反面，自分自身で考える力がやや弱く，そのことが具体的な意図や問題点が不明瞭なままの制作につながっているように思われる。

本時の対象である 1 年生については，まだ授業における規律もしっかりしており，物怖じせずに積極的に意見を述べることもできる学年である。そのため上級生との会話においても，質問や感想が出やすいのではないかと考えている。

【指導観】

全校生徒の作品を観る機会が少ないこともあり，完成後一斉に教室前の廊下に掲示されることを非常に楽しみにしている。そうした生徒の関心の高さが表現の活動に対する関心・意欲を喚起すると同時に，学年それぞれの作品が発展的に高度になることから，次年度の同活動で実現させたい目標や構想を持ちやすい。しかし，上級生の作品を観るときに，単に「上手い」「すごい」「きれい」といった感想で留まってしまう子どもも多いため，今回はより積極的に参考作品の理解を深めるために，作者の上級生自身から自身の作品を解説する時間をとってみることにした。

1. 指導計画及び評価計画 (総時数9時限)

指 導 計 画		評 価 計 画
第1次 (1時限) 【本時】	前年度生の作品鑑賞 ・ 本単元の活動内容の確認 ・ 感想および具体的な制作方法の理解	前向きな取り組み、発言…① 表現意図の構想と発想…② 基礎的知識・技能の学習…③ 作品から感じ取る感性…④
第2次 (3時限)	下描き ・ 手本を拡大転写する方法の学習	前向きな取り組み…① 基礎的知識・技能の学習…③
第3次 (4時限)	色塗り ・ 絵の具の溶き具合の学習 ・ 運筆の基礎の学習	前向きな取り組み…① 表現方法の構想…② 表現意図の実現…③
第4次 (1時限)	完成作品の相互鑑賞	他者の表現の尊重…④

2. 本時の学習 (第1次中第1時)

(1) 題材名 「先輩の作品から学ぼう」

(2) ねらい

- ・ 前向きな態度で活動に取り組む。
- ・ 前年度作品を鑑賞し、そのよさや問題点について自分の考えを持つ。

(3) 評価の観点及び規準

前向きな態度で活動に取り組むことができる。

前年度作品を鑑賞し、そのよさや問題点について自分の考えを持つことができる。

(4) 本時の展開

学 習 活 動	教師の支援、指導上の留意点	時間	
1. あいさつ 2. 本単元の内容について理解する。	出席確認 板配布 ・ プロジェクターを使い、展示の様子を示しながら、本単元の概要を説明する。	10分	
3. 実際の作品を鑑賞する。 ・ 6つのグループに分かれ、グループごとに作品鑑賞を行う。 ・ 最初は個人で、気付いた点や疑問に思う点を書き出していく。 ・ 次に、個人の意見を出し合いながらグループ内で意見交換を行い、2年生に尋ねたい質問内容を具体的にしていく。	ワークシート配布 ・ 気付いたこと、疑問に思うこと、2年生に直接尋ねてみたいことを考えるように助言する。	10分	
4. 2年生から直接話を聞く。 ① 2年生による自作品の紹介。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己紹介 ・ 自分の作品でよいと思うところ。 ・ 工夫したところ ・ 苦労したところ ・ 描き終わって分かったこと ・ 1年生にアドバイス </td> </tr> </table> ② 1年生による感想と質問	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己紹介 ・ 自分の作品でよいと思うところ。 ・ 工夫したところ ・ 苦労したところ ・ 描き終わって分かったこと ・ 1年生にアドバイス 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ここから、別室でワークシートのまとめを行っていた2年生のうち代表12名を合流させ、各グループに2名ずつ入らせる。 ・ できるだけ具体的かつ1年生に分かりやすい説明をするように支援する。 	15分
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己紹介 ・ 自分の作品でよいと思うところ。 ・ 工夫したところ ・ 苦労したところ ・ 描き終わって分かったこと ・ 1年生にアドバイス 			
5. 2年生退室、まとめの発表 ・ 各グループから1名ずつ、感想、質問と答えなどを報告する。	・ うながして挙手がなければ指名する。	10分	
3. 次回予告 4. あいさつ	ワークシート回収	5分	

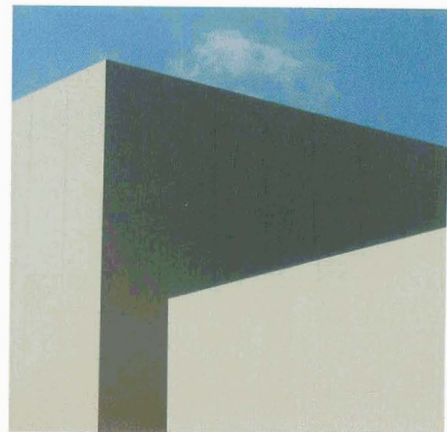
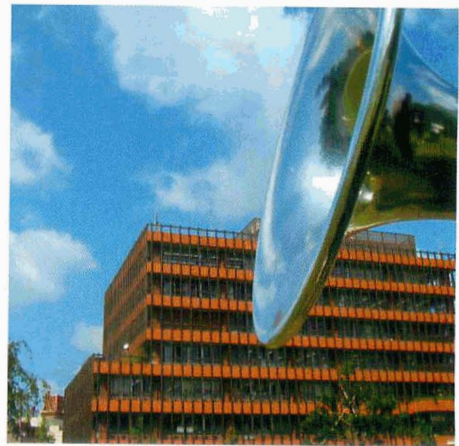


図8 3年生による写真



図1 美術室前の作品掲示（柏葉写生）



図2 美術室前の作品掲示（自画像）



図3 階段のネットにかけたピンナップボード



図4 以前の廊下

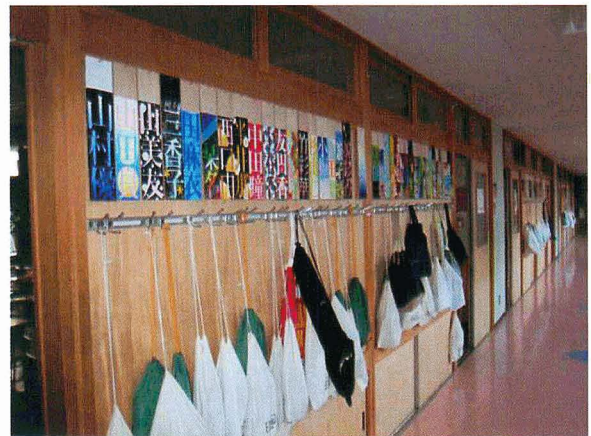


図5 レタリング表札の展示



図6 上級生の作品を鑑賞



図7 上級生の作品を鑑賞